

北海道議會時報

第 15 卷 第 9 号

昭和 38 年 9 月



北海道議會事務局

..... 第 9 号 目 次

議 会 の 動 き

議会運営委員会.....	1
常任委員会.....	1
特別委員会.....	6
総合開発調査特別委員会	
石炭対策特別委員会	

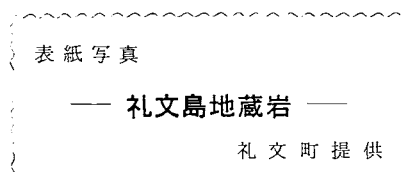
会 合

10都道府県議会議長会.....	10
10都道府県議会事務協議会.....	10
東北7県北海道知事議長合同会議.....	10
北海道・東北6県議会事務連絡協議会.....	10

資 料

第2回定例道議会の議決を経た条例の公布調.....	11
大臣・次官一覧.....	12
政党幹部一覧.....	13
道内主要政党役員一覧.....	15

8 月 の メ モ



議会の動き

常任委員会

総務委員会

議会運営委員会

○8月26日 午後4時25分、議会運営委員会室において開議、午後5時7分散会、委員長 天谷平信（自民）

- ① 委員長から、自民クラブの自民党復帰に伴う控室の問題について、理事会で相談の結果つぎの機会に決定することとした旨を述べ、異議なくこれを了承。
- ② 金沢事務局長から、府県議会運営状況調査の日程案について説明を聴取の後、暫時休憩、再開後、休憩中に協議したとおり、府県調査については、第1班大石（社会）、林（利）（自民）、樋口（自民）、伊藤（作）（自民）、阿部（英）（自民）、清水（社会）の6委員、第2班は、山田（社会）、砂原（社会）、村上（自民）、森（自民）、松尾（自民）、山下（社会）、天谷（自民）の7委員とし、日程については、後刻印刷送付すること、また調査事項については、なお検討したいとはかり、異議なくそのことを了承。

○8月7日 午後1時57分、第1委員会室において開議、午後3時25分散会、委員長 深山和園（自民）
開議に先立ち道警本部総務課長外6人から新任のあいさつがあつた。

請願、陳情の審査

請 願

第2号 札幌市白石南郷地区に巡査駐在所設置の件
（保留）

陳 情

第26号 污水対策の件
（保留）
第44号 支笏湖における警官の威かく射撃に対する措置の件
（取り下げ）
第62号 在日朝鮮人総連合会が画策する北韓自由往来運動阻止の件
（取り下げ）
第66号 食品衛生事業者に対する固定資産税減免措置の件
（不採択）
第68号 北海道大学農学部に酪農科学研究施設設立要望の件
（採択）

一 般 議 事

- ① 堀副委員長（社）から、農地固定資産評価改訂及び寒冷地手当増額要望に関する中央折衝の経過について報告があり、異議なく報告を了承。
- ② 委員長から、道内調査は第1班渡島、松山支庁管内、第2班留萌、宗谷管内とすることについてはかり、異議なくこれを了承。
- ③ 武藤委員（社）から、道の退職者で組織している「道友会」の組織、事業内容、目的及び入会資格条件について説明されたい、また道庁の現職幹部が会員となつてゐるが差し支えないのか、会則の中に「道庁の御用達」という項目があるが、何を御用達するのか、また事務所に道庁の庁内電話をひいている事実があるかどうか
について質疑があり、総務部長から答弁。

厚生委員会

○8月6日 午前11時5分、第1委員会室において開議、午前11時35分散会、委員長 奈良敬蔵（自民）

請願、陳情の審査

請 願

第47号 旅館従業員に対し社会保険制度適用要望の件 (採択)

陳 情

第12号 食品衛生事業育成に対する諸対策の件 (採択)

第13号 がん検診車に対し道費助成の件 (採択)

一 般 議 事

① 中松副委員長(自民)から、39年度厚生省関係国費予算に関する中央折衝の経過について報告の後、

井口委員(社)から、不良環境地区改善は何か所要望したのか、従来は1年間に何か所位対象となつてゐるのか

について質疑、民生部長から答弁があつて、異議なく報告を了承。

② 委員長から、道内厚生事情調査を、配付日程案のとおり実施することについてはかり、異議なくそのことに決定。

商工労働委員会

○8月19日 午前11時36分、第1委員会室において開議、午後零時43分散会、委員長 橋本清次郎(社)

一 般 議 事

① 消費経済課長から、道行政監察局所見表示事項、消費者物価に関する件及び園芸作物の生産振興についての説明を聴取の後、

西島羽委員(社)から、園芸作物道指定特産地の6地区はどこか、東京都で行なつてゐる標準価格の店頭表示の制度を採用すべきでないか、

佐藤委員(自民)から、道行政監察局の所見に対し道はどう考えているか、農林省の45年度を目標に人口15万以上の都市に中央卸売市場を設置するという通達をどのように進めていくか、農協を中心にした地方市場設置の基本方針はどうなつてゐるか、

佐々木(盛)委員(社)から、市場に対する知事の権限が弱いがこの点どう考えているか、市場手数料引き下げは小売業者、消費者にどのような恩恵をもたらすか、また札幌市は38年度の出荷奨励金支出を出荷業者と契約しているがこれに対する影響はどうか、

新川委員(社)から、場外市場及び市場仲買人等に対する指導体制をどう考えているか、物価に関する諮問機関を設置すべきでないか、次回委員会には企画部長と農務部長の出席を要求してもらいたい

等について質疑、意見及び要望があり、商工部長、消費経済課長から答弁。

② 委員長から、次回委員会に企画部長と農務部長の出席を要求することについてはかり、異議なくそのこと

に決定。つぎに8月27日に旭川市における実情調査、9月2日より道南及び道東地域の実情調査を2班に分けて行なうことについてはかり、異議なくそのことに決定。

農 務 委 員 会

○8月5日 午後1時35分、第1委員会室において開議、午後3時48分散会、委員長 池田信孝(自民)

一 般 議 事

① 糸川委員(社)から、農地固定資産評価改訂に関する中央折衝の経過について報告があり、異議なくこれを了承。

② 農業改良課長から、8月1日現在の農作物作況について説明を聴取。

③ 農務部長から、38年度てん菜価格問題について説明を聴取の後、

美濃委員(社)から、現在道として考えている方針及び基本的考え方はどうか、てん菜生産振興審議会設置の作業進捗状況及び人員、構成の内容、道は糖業者と生産者との意見を聴取したことがあるか、前議会の予算特別委員会で一元集荷、多元販売をすれば混乱を生ずるので管理会会計から出すように折衝したいといつてゐるがどのような措置がとられたのか、価格の決定にあたり、国に対しどのような要望をしたのか、8月中に目途をつけるべきであると思うがその目標はいつ頃か、会社は5,300円の価格を示したが、食糧庁のバリテー指数よりも低く、果して12万トンを各工場は均等確保ができるのか、一元集荷、多元販売が困難な場合、一方的な行政命令でできないと思うがどうか、

糸川委員(社)から、原料調整は、今年も均等配分を行なうという考え方でうけとつてよいのか、てん菜の将来の増反の構えはどうか、価格は最低価格とスライド方式による追加払い方式でやるというが、39年以降の考え方はどうか、

渡部副委員長(社)から、てん菜買上げ価格に関連して、部長は集荷区域は昨年どおりとする、新設工場については数量調整を行なうというがその理由、数量は均等配分するのかどうか、政府買入れ措置は自信をもつてできるのか、糖業者が12万トン均一で糖価144円として5,300円を算出しているが、この数字を明らかにされたい、法の通過を前提として買入れができるのであれば、政府は一率に買入れの措置ができないのかどうか、一元集荷、多元販売で、7,060円で買うところに出すとの構えを示せば増反されると思うがどうか、社会党は生産費所得補償方式で価格を要求しているが、具体的に価格の構成はどのようになるのか、37

年の管理会上置き総額と38年の収支状況、道が農林省に対して要請している文書には「拡大再生産を図る」とあるが、拡大と再生産との相違及び具体的方針、法案はバリテー方式で出しているが、39年以降は操業度、糖価をルールの中に入れるという歩留りをどのように考えているか、増産担当区域の事業の内容、法案の中に「自給度の向上」が挿入されたが、次第にその意義が失なわれつつある、この点道はどのように考えているのか、工場新設の中止に伴う措置はどのように行なつたか

等について質疑、意見及び要求があり、農務部長、畑作園芸課長から答弁。

- ④ 委員長から、てん菜生産振興、マル寒資金等に関する中央折衝を実施することとし、日程等については委員長一任とすることについてはかり、異議なくそのことに決定、つぎに、農業試験研究施設等道内調査を実施することについてはかり、異議なくそのことに決定、派遣委員等については委員長一任とすることとした。

- ⑤ 渡部副委員長(社)から、生鮮食料品の生産から卸までの調査にもとづく資料及び追せき調査の結果に関する資料を提出されたいとの要求があつた。

- ⑥ 美濃委員(社)から、農産物の輸送については急を要するので国鉄にいくべきでないか

について意見があり、午後3時44分、一旦休憩、午後3時47分再開、休憩中協議のとおり、本件については道内調査実施後に行なうこととした。

- ⑦ 本日聴取した陳情はつぎのとおり。

主要畑作農産物の輸送増強対策について

ホクレン雑穀澱粉課長

○8月26日 午後1時55分、第5委員会室において開議、
午後4時37分散会、委員長 池田信孝(自民)

一般議事

- ① 委員長から、去る8月6・7日の2日間実施した農業試験研究施設等の視察の経過については、報告書の配付をもつて報告にかえる旨をのべ、異議なくこれを了承。ついで、主要畑作農産物の国鉄輸送力増強対策について去る8日、正副委員長、嶋田委員(社)、天谷委員(自民)等が国鉄道支社に赴き、これが対策について強く要請した旨を報告。(なお、本件については中央折衝の際国鉄本社に対し同様の趣旨を要請)

- ② 石坂委員(社)から、てん菜生産振興対策等に関する中央折衝の経過について報告、ついで農務部長からその後の経過について説明を聴取の後、

糸川委員(社)から、無法状態である現在、混乱はさけられないと思うがこの混乱をどのように解決し、どのように処理するのか、

美濃委員(社)から、てん菜価格6,150円の基本線は

決定しているのか、道と糖業者との間に話し合いがなされたのかどうか、また、会社との差額9億5,000万円は解決したのか、定額法の見通しはどうか、今後の指導方針はどうか、糖業者の決算は9月末日であり、一部の業者は利益も上つているところもあり、9月以降支払いとなれば利益に対する税金等の問題で支出できないが、暫定的に損金として受け入れる方途について検討したことがあるか、日甜の納付金制度解消に対する見解はどうか、

天谷委員(自民)から、7,060円は道議会、道、生産者が統一価格として出して運動しているのであり、その折衝経過を農民に示すべきでないか、

渡部副委員長(社)から、6,150円は現行の定率法で上回るとの考えでいるのか、道、道議会、農業団体ともに生産費所得補償方式による価格で要望しているが、法案はバリテー方式であり、道はバリテー計算で近づけたいというが、廃案になつた法によるバリテー計算ではどのようなになるのか、今月中に解決方針を出すのかどうか、

西野(実)委員(自民)から、7,060円が実現しないとすれば一元集荷、販売が起きてくる、国が責任をとり、10億円位は支出すべきである、また、休止工場の補償も考えなければならない事態もくと思うが道はこれにはつきりした態度を示すべきであるとする

等について質疑及び意見があり、農務部長から答弁があつて異議なく報告を了承。

- ③ 農政課長から、生鮮食料品の流通調査及び札幌市、函館市における青果物流通実態調査概要について説明を聴取の後、

渡部副委員長(社)から、生鮮食料品として取り扱う品目、流通対策等の調査は何を取り上げ、どのように解決するのか、道の対策は何をねらいにやるのか、道の機構はどのようになっているか、十勝で生鮮食料品の調査を行なつているが、その対策はどうか、そ菜、果樹の本年度予算はどのように計上し、どのような対策をやつているのか、園芸試験場についてどのような構想をもつているのか、国立試験場の移転計画はどのようになっているか、道と国が場長が兼任している理由及び兼任は改めるべきと考えるがどうか、生産、消費の中間経路について次回委員会に商工部、企画部を出席させるよう取りはからわれたい、

美濃委員(社)から、計画出荷態勢確立のため、指導部門を設ける考えはないか

等について質疑及び意見があり、農務部長から答弁。

- ④ 農業改良課長から、8月20日現在の農作物の作況について説明を聴取。

- ⑤ 本日聴取した陳情はつぎのとおり。

てん菜生産振興対策について

北海道てん菜対策協議会代表

建設委員会

○8月12日 午前11時53分、第5委員会室において開議、
午後4時23分散会、委員長 桶谷利男(自民)
請願、陳情の審査

請願

- 第4号 小平村地内村道小平停車場線を道道に認定
の件 (採択)
- 第22号 砂原村地域内における海岸侵蝕に対し護岸
工事施行の件 (採択)
- 第31号 長沼町地内北長沼市街駅本通りを道道認定
の件 (採択)
- 第35号 士別市地内天塩川支流タヨロマ川を道費河
川に認定の件 (採択)
- 第37号 道道似峠士別停車場線中士別高等学校朝日
町間舗装工事実施の件 (採択)
- 第44号 函館市、尻岸内村、榎法華村所在道道尻岸
内函館線開さく整備の件 (採択)

陳情

- 第8号 昆布森漁港工事促進の件 (採択)
- 第42号 本別町地内道道勇足池田線の改良工事継続
実施の件 (採択)
- 第48号 本別町地内道道本別、芽室線道路改良工事
施行の件 (採択)
- 第49号 俱知安町地内道道蘭越狩太俱知安線の福員
拡張及び路盤改良工事並びに硫黄川橋架換
工事実施の件 (採択)
- 第50号 幌加内町地内雨竜川に架設の雨煙別橋架換
の件 (採択)
- 第51号 赤井川村地内道道赤井川、余市線早期改良
工事実施の件 (採択)
- 第53号 恵庭町地内漁川に対する河川保護の件
(採択)
- 第64号 石狩町地内道費河川知津狩川改修工事促進
の件 (採択)
- 第70号 帯広市地内道道上札内、帯広線早期改良工
事実施の件 (採択)

一般議事

- ① 熊谷委員(社)から、請願、陳情書には、審査に必要な具体的項目をのせるべきでないか、道路、河川について昇格させながら整備されていないものがあるがこれに対しどのような計画を考えているか、道道は国道よりも砂利が浅いがどうか、
尾崎副委員長(自民)から、道道の整備について施策

上なんらかの基準を定めておくべきではないか、

奥野委員(自民)から、道路整備新5カ年計画で4兆円の予算措置がなされるようなので町村道の昇格について十分考慮されたい、

大内委員(自民)から、道の5カ年計画は、中央に提出してあるのか、新5カ年計画で、集中される道路をどのように考えているか

等について質疑、意見及び要望があり、土木部長から答弁。午後1時27分一旦休憩、午後2時16分再開。

- ② 竹内委員(社)から、釧路で行なわれた2級建築士の試験に関する新聞報道の実情はどうか、河川の昇格基準について議会に説明もなく発表しているが議会軽視ではないか、今後の昇格基準について明確に示されたい、

大内委員(自民)から、昆布森漁港工事が27年に着工しながらまだ完了していない理由は何か、網走、根室、釧路地区における海岸保全工事は今後どのように進めていくか、道道の不通箇所を開さくについて新5カ年計画ではどのような対策を考えているか、

尾崎副委員長(自民)から、道道で橋をかける場合、普通河川と準用河川で取扱いが違うのか

等について質疑、意見及び要望があり、土木部長から答弁。

- ③ 建築部長から、札幌南高校及び函館水産高校校舎建築工事の契約についての説明を聴取。

- ④ 島田(薫)(自民)、村本(社)、大内(自民)、熊谷(社)、竹内(社)、尾崎(自民)の各委員から、札幌南高校及び函館水産高校の工事請負契約締結に関する専決処分問題に関連して、今後の委員会における取扱いについてそれぞれ意見があつた。

- ⑤ 委員長から、道内建設事情調査を行なうことについてはかり、異議なくそのことに決定。

農地開拓委員会

○8月19日 午後1時40分、第5委員会室において開議、
午後4時20分散会、委員長 遠藤英吉(社)

一般議事

- ① 中西委員(自民)から、農地固定資産評価改訂に関する中央折衝の経過について報告の後、

林(利)委員(自民)から、この問題について北海道は不利になると聞いているがどうかと質疑、中西委員(自民)から応答、ついで、千葉(自民)、清水(社)、井野(社)の各委員及び津川副委員長(公正ク)から、それぞれ意見があつて、異議なく報告を了承。

- ② 農地開拓部長から、開拓総あらひ調査の結果について説明を聴取の後、

井野委員(社)から、単協の整備及び道開連の整備について第3回定例会にどのような予算の裏付けをするのか、これらの解決をどうするか、第3類農家対策について特に子供達はどうか、入植者の固定負債について国が手を打つまでの間、短期間でも道が対策を考えるのかどうか

等について質疑、意見及び要望があり、農地開拓部長から答弁。

- ③ 農地開拓部長から、明年度道開発予算重点要望事項及び概算要求額について説明を聴取の後、

道下委員(社)から、重点事項はどのような経緯で決定されるのか、農地開拓部は開発庁などと協議して作成したものか、または企画部が知事と協議して作成したものか

について質疑及び意見があり、農地開拓部長から答弁、ついで委員長から、本問題に関する中央折衝を実施することについては、異議なくそのことに決定派遣委員、派遣時期等については委員長一任とすることに決した。

- ④ つぎに、道内農地開拓事情の調査について休憩の上協議することとし、午後4時3分、一旦休憩、午後4時19分再開、道内調査は道北、道南の2班にわかれて実施することについては、異議なくそのことに決定、派遣委員については委員長一任とすることとした。
- ⑤ 道下委員(社)から、土地改良事業に関し、団体営で不採択となつているものについて質疑、農地開拓部長、土地改良課長補佐から答弁。

水産委員会

○8月5日 午後1時55分、第5委員会室において開議、
午後3時散会、委員長 高橋源次郎(自民)

請願、陳情の審査

陳情

第19号 日米加漁業条約改訂交渉に関する要望の件
(採択)

第54号 海産乾場造成に伴う補助事業費拡大の件
(保留)

一般議事

- ① 松平委員(自民)から、採択と決定した陳情第19号(日米加漁業条約改訂交渉に関する要望の件)について中央折衝をしてはどうか

について意見があり、坂下副委員長(社)から応答。

- ② 麻里委員(自民)から、漁業構造改善事業問題に関し、日本海北部地域における事業量の調整についてどのような作業を進めているか、その方針、計画から外され

た地区は道別個でやるのかどうか、農林漁業金融公庫の金融条件がきびしく融資が困難というが、公庫と打合せをしているのかどうか、構造改善事業推進のため、機構改革を進めるべきでないか、漁業組合の合併促進について道の強力な指導が必要であると思うがどうか、金星丸により資源調査をしているが、最近の資源量、漁撈面についての調査結果はどうか

について質疑、意見及び要望があり、水産部長、漁政課長、水産課長から答弁。

- ③ 沖野委員(自民)から、ソ連イカダによる被害補償問題に関連して、先月東利尻でタコ縄漁民16人が損害をうけているが、道は弁償の電話要請を行なつたのかどうか、この地域は、以前にも損害を蒙っているがどうか、道として打つ手はないのか、

麻里委員(自民)から、見舞金が駄目であるならば金融機関から金を借りてもよいのではないかと、また道は利子補給等も考えてもよいのではないかと

等について質疑及び意見があり、水産部長、漁政課長から答弁。

○8月21日 午前11時7分、第1委員会室において開議、
午後零時16分散会、委員長 高橋源次郎(自民)

請願、陳情の審査

陳情

第54号 海産乾場造成に伴う補助事業費拡大の件
(採択)

一般議事

- ① 委員長から、去る8月6日から12日まで7日間道東、道北地域の水産状況の調査経過は、報告書の配付をもつて報告にかえる旨をのべ、異議なくこれを了承。
- ② 水産部長から、日米加漁業条約改訂問題について説明を聴取の後、

砂原委員(社)から、最近の政府側の態度及びかん詰めの輸入阻止は、たしかな筋から情報が入っているようだがどうか、

川村委員(社)から、この問題に対する知事の腹がまえ、道内漁業団体の腹がまえ及び漁民世論の喚起について行政庁としてどのように考え、どのような指導の手を打っているか、

松平委員(自民)から、本道としては重要な問題であり、強力に中央折衝をすべきである

等について質疑及び意見があり、水産部長、漁業調整課長から答弁。

- ③ 阿部(文)委員(公正ク)から、ソ連イカダによる漁業被害についてどのように対策を講じているのか、ソ連と通商協定はできたのか、また、日本政府は補償のための予算はあるのかどうか、

砂原委員(社)から、ソ連ニシン輸入に対する見返り物資はどうか、これが成果はどうか
について質疑及び意見があり、水産部長から答弁、午後零時、一旦休憩、午後零時12分再開。

- ④ 委員長から、日米加漁業条約改訂問題及びソ連イカダ曳航による被害補償問題に関する中央折衝を実施することについてはかり、異議なくそのことに決定、日程は1班を22日から、28日まで、2班は27日から1週間とすることとし、派遣委員については正副委員長に一任とすることとした。

文教林務委員会

- 8月2日 午前11時31分、第1委員会室において開議、
午後零時44分散会、委員長 岡田義雄(社)
開議に先立ち、中野林務部次長から西欧諸国等の林業改良事情視察帰庁報告があつた。

請願、陳情の審査

陳 情

- 第9号 熊駆除対策の件 (採択)
第15号 広尾町地内農家林拡充事業推進の件 (保留)
第31号 十勝管内におけるかん害対策の件 (採択)
第35号 昭和38年5月強風干ばつ災害対策の件 (採択)
第36号 豊頃村森林組合に対し道有林立木払下げの件 (不採択)

一 般 議 事

- ① 委員長から、先の委員会において、林務部から道有林野事業費配置定数、同会計繰出繰入金関係資料が提出されているが、本件については、林務部と総務部との話し合いが終了後、あらためて審議を行なうことにしたいとはかり、異議なくそのことを了承。
② 本日聴取した陳情はつぎのとおり。
道立月寒高校の学級増設について

月寒高校間口増設期成会会長

特 別 委 員 会

総合開発調査特別委員会

- 8月12日 午後1時47分、第1委員会室において開議、
午後6時55分散会、委員長 二瓶栄吾(自民)

- ① 井口副委員長(社)から、道内国鉄主要幹線の複線化及び電化促進に関する中央折衝の経過について報告があり、ついで、

新川委員(社)から、この問題の取扱いについての企画部長の基本的な考え方はどうか、

佐野委員(社)から、報告書中若干変更ある模様というのはどういうことか

等について質疑があり、企画部長から答弁があり、異議なく報告を了承。

- ② 委員長から、去る8月2日札幌市(グランドホテル)において開催の北海道開発審議会農林水産小委員会、草地問題起草委員会にオブザーバーとして井口副委員長(社)と出席したことについて了承を求めた。

- ③ 昭和39年度北海道開発予算要求に関する理事者の説明聴取について佐野委員(社)、新川委員(社)から、説明をするということは、今日始めて聞いたところであり、このような委員会の持ち方は問題があると思う、この際、暫時休憩して、委員会の運営等について理事会で相談することにしたらどうか

等について意見があり、午後2時42分休憩、午後4時38分再開。

- ④ 委員長から、休憩中理事会を開き、本委員会運営の基本的な態度について協議を行なつたが、今後は、より以上積極的に委員会の使命達成のため諸問題と取り組み、処理できるような委員会の運営をしていきたいので、協力を願いたいと述べ、異議なくそのことを了承。

- ⑤ 企画部長、財政課長から、39年度北海道開発予算の要求について説明を聴取の後、

高田委員(社)から、項目別における説明の内容がまちまちであり一貫した内容の資料を提出されたい、

川村委員(社)、新川委員(社)、佐野委員(社)から、開議決定の3兆34億と道案の間に約14億の差がある、3兆34億の中の公共投資9,000億と、純民間資金1兆94億を含むその他2兆44億の内訳、これの解明はどうか、予算要求は、何を基礎としたか、その根拠、理由が明らかでない

等について質疑並びに要求があり、企画部長から答弁、暫時休憩の後散会。

○8月13日 午後零時20分、第1委員会室において開議、
午後1時30分散会、委員長 二瓶栄吾(自民)

- ① 企画部長等から、昨日高田委員等から指摘のあつた予算要求に関する最重点事項について説明を聴取の後新川委員(社)から、地域開発計画の付属説明資料の114億と、資料④の85億の差については、これを民間投資と考えてよいか、他の項目もすべてそうなのか、佐野委員(社)から、資金計画の個別所ごとの資料を事業内容で示されたい、

高田委員(社)から、資金計画は、基準年次をもつて計算している、第2期計画の改訂とはどういう意味か、金額は、当然に変わるものでないか、なお委員長に聞くが、第2期計画の計画書総論、各論とも、これをもらっていない委員もあるので、この点検討されたい

等について質疑及び要求があり、企画部長から答弁。

- ② 委員長から、8月22日開催の北海道開発審議会に対し、本委員会より、オブザーバーとして、委員を派遣すること、及び派遣委員、日程等については、正副委員長に一任することについてはかり、異議なくそのことに決定、ついで8月16日から18日までの予定で、道内を視察する佐藤開発庁長官に対する日程案等についても、正副委員長に一任することについてはかり、異議なくそのことに決定。

○8月26日 午後1時30分、第1委員会室において開議、
午後5時10分散会、委員長 二瓶栄吾(自民)

- ① 高田委員(社)から、8月22日東京において開催された、北海道開発審議会に、オブザーバーとして出席した経過について報告があり、異議なく報告を了承、午後1時40分休憩、午後2時30分再開。

- ② 企画部長から、前委員会において、高田委員等から要求のあつた第2期開発計画における資金計画について説明を聴取の後、

佐野委員(社)から、道の意見及び開発庁案は、部門別、事業別に積み上げたものと考えてよいか、企業投資と財政投資について、政府企業と民間企業投資との関係はどのような配分になっているか、所得倍增計画の要領に従つて、閣議で3兆34億が基本的に決つたが、道案の積み上げと、作業の過程が全く違うこれに制約されておろすのはどうか、両者の数字は最終的には大差がないのだから閣議決定の数字は、頭に置かないで、開発庁案でやつていくことはできないのか、また新産法指定について、道央地区の直ぐ隣りの日高とのつながりはどうするのか、上川と道北との関係、また網走地方も全く違う異質のものがあつたと思う、本委員会が自主権を持つためには、小委員会制を設けて、文化、厚生等社会生活的なもの、農林、水産等の産業振興的

なもの、運輸、交通等基盤的なもの等三つ位に分けて、専門に依つて現地の実情等も視察すべきと思う、道内にきよ点が沢山あるが、地域別、或いは産業別に積み上げることがよいのか、もつと掘り下げた上に立つて質疑を行ない、われわれにも十分発言の機会を与えてもらつたらよいと思う、

川村委員(社)から、開発庁は、なぜ部門別資金計画ができないのか、道案より意欲的だ、積み上げだといながら今に至ると出来ないということはおかしい、道の作つたものは無条件でのませるべきだと思う、

大沢委員(自民)から、開発庁案は、積み上げだというのが資料の中の478,660千円に道、市町村負担分が含まれているのか、国の道路、治水治山等の計画が改訂されると道の計画は非常に変わってくるというように理解してよいのか、

高田委員(社)から、新産都市を地域計画の中にどのように折り込んでいくのか、法では具体的な内容は、知事が決め、国がやるのは基本的な構想だけであろう、道は、関係市町村の話をまとめ、総合調整をし、地域計画との関連をどのように進めるのか、場合によつては、現在の作業が徒労に終るのでないかと心配している

等について、質疑及び意見があり、企画部長から答弁の後、暫時休憩、再開後、休憩中に決定した、能動的にやるための委員会の態度を確認すること、及び具体的な方法については、理事会に一任することについてはかり、異議なくそのことに決定。

○8月27日 午後2時45分、第1委員会室において開議、
午後5時5分散会、委員長 二瓶栄吾(自民)

- ① 委員長から、地域開発計画の調査審議をより積極的に推進するため、小委員会を設置することについてはかり、異議なくそのことに決定、小委員会は第1第2第3の3小委員会とし、第1小委員会は、農林、水産、工鉱業等の産業振興の面、第2小委員会は、土木、建築、運輸、交通、電力、国土保全等の基盤整備の面、第3小委員会は、文化、厚生、労働、観光等の社会生活の面を所管する及び委員の選任については、委員長、指名によることをはかり、異議なくそのことに決定、つぎのとおり委員を指名決定した。

第1小委員会、高橋(賢)委員(自民)、倉増委員(公正ク)佐野委員(社)、麻里委員(自民)、大沢委員(自民)、第2小委員会、大島委員(自民)、杉本委員(自民)、新川委員(社)、道下委員(社)、福島委員(自民)、第3小委員会、堀田委員(自民)、西野(吉)委員(自民)、川村委員(社)、高田委員(社)、中山委員(自民)、

- ② ついで地域計画審議に資するため、現地調査を実施することをはかり、異議なくそのことに決定、日程案

審議のため暫時休憩、再開後、現地調査の日程を決定するとともに派遣委員については、委員長一任と決した。

○8月27日 午後3時7分、第2委員会室において第1小委員会を開議、午後3時10分散会、主査 大沢重太郎(自民)

主査の互選

大沢臨時主査(自民)から、主査の互選についてはかり、倉増委員(公正ク)の動議により、指名推せんの方法により、大沢委員(自民)を主査に選出した。

○8月27日 午後3時7分、第4委員会室において第2小委員会を開議、午後3時10分散会、主査 福島新太郎(自民)

主査の互選

杉本臨時主査(自民)から、主査の互選についてはかり、福島委員(自民)から、互選の方法は、指名推せんとし、その指名は、杉本臨時主査から行なわれたいと動議を提出、賛成あつて動議成立、これをはかつて異議なくそのことに決定、杉本臨時主査から主査に福島委員(自民)を指名選出した。

○8月27日 午後3時7分、第5委員会室において第3小委員会を開議、午後3時10分散会、主査 堀田毅(自民)

主査の互選

堀田臨時主査(自民)から、主査の互選についてはかり、高田委員(社)の動議により、指名推せんの方法により、堀田委員(自民)を主査に選出した。

石炭対策特別委員会

○8月22日 午前11時52分、第5委員会室において開議、午後5時26分散会、委員長 伊藤弘(自民)

① 副知事(那須)から、石炭問題に関する稲葉調査団来道視察の経過について説明を聴取の後、

西鳥羽委員(社)から、美唄市における縫製品工場、三美製作所及び畜産公社の問題についてどのように話し合いが進められているか、

武藤委員(社)から、38年度の合理化計画に応じた離職者対策はどうか、

津川委員(公正ク)から、炭鉱における鉱員不足が生じているところがあるがこれについてどう考えているか

等について質疑、意見及び要望があり、副知事(那

須)から答弁。午後零時37分、一旦休憩、午後2時15分再開。

② 佐藤委員(自民)から、産炭地振興等に関する中央折衝の経過について報告があり、異議なくこれを了承。

③ 商工部長から、石炭問題に関する稲葉調査団の来道視察の経過について、同次長から、産炭地域振興実施計画案についてそれぞれ説明を聴取の後、

原田委員(自民)から、産業基盤整備として地方道の整備についても計画の中に入れるべきでないか、木材資源についてチップ製材の需要も含めてどの程度の原木が必要となるか、美唄鉱業所の鉱員の配置転換はどのように進められているか、就職促進指導官の職務内容はどうかについて、

湯田副委員長(社)から、この実施計画に対応した資金計画はどうかについて、

佐々木(盛)委員(社)から、調査団の結論について道は不介入であつたのか、産炭地振興審議会北海道地域部会の付帯決議と関連した産炭地域振興実施計画に対する資金確保についての対策はどうかについて、

武藤委員(社)から、離職者の雇用対策について、実施計画では38年に発生する離職者の半数しかみていないのはどうしてか、残つたものの対策はどうするのかこの実施計画達成に対する決意はどうか、離職者の職業訓練所入所状況はどうかについて、

西鳥羽委員(社)から、実施計画の年次別具体的内容を明らかにされたい、炭鉱における生活協同組合対策をどう考えているか、美唄市における製紙工場設置についてどう考えているか

等について質疑、意見及び要望があり、副知事(那須) 商工部長、同次長、職業安定課長から答弁。

④ 本日聴取した陳情はつぎのとおり。

白糠町地域開発促進のため産炭地振興緊急対策の実現について 白糠町長

○8月23日 午前10時28分、第5委員会室において開議、午後零時33分散会、委員長 伊藤弘(自民)

① 渡辺(浩)委員(社)から、産炭地域振興実施計画における雇用対策をどのように考えて進めていくか、産業基盤整備について、道自体の計画を明らかにされたい、実施計画に伴う資金確保についてどのように考えているか、第2期総合開発計画におけるエネルギー部門について再検討すべきでないか、道の労働力需給関係を解明し、その対策をたてるべきでないか、原子力の技術開発に伴うエネルギー問題について諸外国の具体的施策を提示されたい、

村本委員(社)から、通産省実施計画は新聞報道では石狩地区としてあるが実情はどうか、産炭地における今後の経済変動、経済構造をどのように考えているか、

産炭地振興審議会道部会での付帯決議と関連した実施計画に対する資金計画を明らかにされたい、スラリ一輸送はどのくらいの年月を必要とするか、住宅施設及び生活環境施設整備についてどのように考えているか、

武藤委員(社)から、実施計画における離職者の数が実数と合わないのではないか、明治路鉄鉱閉山について会社に存置するよう要請されたい

等について質疑、意見及び要望があり、副知事(那須)、商工部長、同次長、職業訓練課長、職業安定課長、社会課長から答弁。

- ② 委員長から、産炭地域振興実施計画について小委員会を設置してさらに十分検討することについてはかり、異議なくそのことに決定。小委員に神部(自民)、渡辺(浩)(社)、武藤(社)、渡辺(省)(自民)の各委員を選出した。
- ③ 委員長から、産炭地域振興実施計画に関する中央折衝、九州地域石炭産業実情調査及び道内実情調査を行なうことについてはかり、異議なくそのことに決定、日程および派遣委員等については、委員長一任とすることとした。

○8月26日 午前11時10分、議長副室において小委員会を開議、午後零時22分散会、小委員長 神部俊郎(自民)

- ① 神部臨時小委員長(自民)から、小委員長互選の方法についてはかり、武藤委員(社)の動議により、指名推せんの方法により神部委員(自民)を小委員長に選出した。
- ② 小委員長から、産炭地域振興実施計画について休憩の上協議する旨を述べ、午前11時14分休憩、(休憩中、産炭地域振興実施計画に関し、本委員会で問題となつた諸点について検討、ついで本計画に要望事項を付し承認することとし、そのとりまとめを行なつた。)午後零時21分再開して直ちに散会。

○8月27日 午前11時1分、副議長室において、小委員会を開議、午後1時6分散会、小委員長 神部俊郎(自民)

小委員長から、産炭地域振興実施計画に対する要望事項の案文について休憩の上協議する旨を述べ、午前11時2分休憩、(休憩中、要望事項のうち雇用問題に関し検討した。)午後1時40分再開して直ちに散会。

○8月28日 午後1時44分、議会運営委員会室において小委員会を開議、午後3時19分散会、小委員長 神部俊郎(自民)

小委員長から、昨日に引き続き産炭地域振興実施計

画に対する要望事項について休憩の上協議する旨を述べ、午後1時45分休憩、(休憩中、要望事項のとりまとめを行なつた。)午後3時10分再開、実施計画に対する要望事項を、休憩中協議したとおりに決定することについてはかり、異議なくそのことに決定。



10都道府県議会議長会

○8月7日 東京都において開催、つぎの事項を協議決定し、関係方面に要望することとした。

- 1 公共用地の取得に対する国の財政投融資措置について
- 2 水質汚濁防止並びに毒物劇物取締りについて協議保留とされた案件
地方行政連絡会議法案の早期成立について

10都道府県議会事務協議会

○8月2日 愛知県において開催、つぎの事項について協議研究した。

- 1 日程追加を要する動議の取り扱いについて
- 2 議事の中止の取り扱いについて
- 3 速記士について
- 4 委員会の会議内容を議員に周知させることについて
- 5 小会派の取り扱いについて
- 6 意見書の取り扱いについて
- 7 本会議場の議席にマイクの備えつけ状況について
- 8 本会議場でのセンスの使用、喫煙等の制限状況について
- 9 本会議の傍聴制度について
- 10 会議録署名者が議場に不在のときの措置について
- 11 議長権限の委任について
- 12 常任委員会の会議時間について

東北7県北海道知事議長合同会議

○8月6日 都道府県会館において開催、つぎの事項を協議決定し、関係方面に要望することとした。

- 1 昭和39年度東北開発関係予算要望について
- 2 東北開発促進計画の改訂について
- 3 事北開発に対する行政投資額の増大について
- 4 東北開発株式会社による観光事業の推進について
- 5 北海道、東北開発公庫の融資額及び融資対象業種の拡大について

- 6 青函トンネル建設促進について
- 7 東北、北海道主要幹線の複線化並びに電化促進について
- 8 車両制限令実施に伴う都市内バス路線の改築について
- 9 国有林野解放に関する立法措置について
- 10 農地開発に伴う国有林野放牧採草地としての所屬替について
- 11 団体営土地改良事業の国庫補助率の引上げについて
- 12 石炭対策の推進について
- 13 豪雪地帯対策特別措置法に基づく地域指定及び基本計画の早期樹立について
- 14 積雪寒冷地における所得税率の軽減について
- 15 寒冷地手当の増額について
- 16 東北6県職員宿泊施設の建設計画について

北海道・東北6県議会事務連絡協議会

○8月7・8日の2日間北海道において開催、つぎの事項について協議研究した。

- 1 議案の採決方法について
- 2 同一事件に関し2個以上の議案が発議された場合の取り扱いについて
- 3 議会運営に関する事項を所管する常任委員会の設置について
- 4 議会運営に関する決定事項について
- 5 標準会議規則第1次改正点に基づく会議規則の改正について
- 6 日程追加を要する動議の取り扱いについて
- 7 議事の中止の取り扱いについて
- 8 新産業都市区域の指定と議会の議決権との関係について

資 料

第2回定例道議会の議決を経た条例の公布調

件 名	議決月日	公 布 月 日 公 布 番 号
北海道職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	7.22	7. 30 道条例第16
北海道税条例の一部を改正する条例	同	同 17
北海道保母修学資金貸付条例	同	同 18
北海道看護婦職員養成修学資金貸付条例	同	同 19
北海道委託衛生試験条例の一部を改正する条例	同	同 20
北海道立診療所条例の一部を改正する条例	同	同 21
北海道農業改良普及所条例の一部を改正する条例	同	同 22
北海道地方競馬実施条例の一部を改正する条例	同	同 23
北海道営放牧利用模範施設条例の一部を改正する条例	同	同 24
北海道家畜保健衛生所条例の一部を改正する条例	同	同 25
北海道沿岸漁家経済振興促進助成条例の一部を改正する条例	同	同 26
北海道工鉱業開発促進条例	同	同 27
北海道公立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例の一部を改正する条例	同	同 28
北海道議会議員の選挙区の合区に関する条例	同	同 29
北海道立青年の家条例の一部を改正する条例	報 告	6. 27 同 15

大臣・次官一覧

大 臣		政 務 次 官		事 務 次 官	
内 閣 総 理	池 田 勇 人 広島 2				
法 務	賀 屋 興 宜 東京 3	天 埜 良 吉 参 全国	竹 原 精 太 郎		
外 務	大 平 正 芳 香 川 2	伊 藤 五 郎 山 形 2	島 重 信		
大 蔵	田 中 角 栄 新潟 3	斎 藤 邦 吉 福 島 3	石 野 信 一		
		額 額 弥 三 岐 阜 2			
文 部	灘 尾 弘 吉 広島 1	八 木 徹 雄 愛 媛 2	内 藤 馨 三 郎		
厚 生	小 林 武 治 参 静 岡	砂 原 格 広島 1	太 宰 博 邦		
農 林	赤 城 宗 徳 茨 城 3	丹 羽 兵 助 愛 知 2	大 沢 融		
		松 野 孝 一 参 秋 田			
通 商 産 業	福 田 一 福 井	田 中 栄 一 東京 1	今 井 善 衛		
		林 博 東京 6			
運 輸	綾 部 健 太 郎 大 分 2	田 辺 国 男 山 梨	岡 本 悟		
郵 政	古 池 信 三 参 岐 阜	金 丸 信 山 梨	西 村 尚 治		
労 働	大 橋 武 夫 島 根	蔵 内 修 治 福 岡 4	堀 秀 夫		
建 設 兼 首 都 圏 整 備 委 員 長 近 畿 圏 整 備 委 員 長	河 野 一 郎 神 奈 川 3	鴨 田 宗 一 埼 玉 3	山 内 一 郎		
自 治	早 川 崇 和 歌 山 2	金 子 岩 三 長 崎 2	金 丸 三 郎		
国 家 公 安 委 員 長	同	同	警 察 庁 長 官 江 口 俊 男		
国 務 行 政 管 理 庁 長 官	山 村 新 治 郎 千 葉 2	川 上 為 治 参 全 国	犬 丸 実		
国 務 北 海 道 開 発 庁 長 官 科 学 技 術 庁 長 官 原 子 力 委 員 長、五 輪 担 当	佐 藤 栄 作 山 口 2	井 川 伊 平 参 北 海 道 鹿 島 俊 雄 参 全 国	猪 瀬 寧 雄 鈴 江 康 平		
国 務 防 衛 庁 長 官	福 田 篤 泰 東京 7	井 原 岸 高 愛 媛 2	加 藤 陽 三		
国 務 経 済 企 画 庁 長 官	宮 沢 喜 一 参 広 島	倉 成 正 長 崎 1	松 村 敬 一		
内 閣 官 房 長 官	黒 金 泰 美 山 形 1	内 閣 官 房 副 長 官	草 野 一 郎 平	滋 賀	
			細 谷 喜 一		
総 務 長 官	野 田 武 夫 神 奈 川 2	法 制 局 長 官	林 修 三		

政 党 幹 部 一 覧

自 由 民 主 党

総 裁	池 田 勇 人	広 島 2
副 総 裁	大 野 伴 睦	岐 阜 1

幹 事 長	前 尾 繁 三 郎	京 都 2		
副 幹 事 長	鈴 木 善 幸 中 村 幸 八	岩 手 1 静 岡 3	竹 山 祐 太 郎 安 井 謙	静 岡 3 参 東 京

総 務 会 長	藤 山 愛 一 郎	神 奈 川 1
---------	-----------	---------

政 務 調 査 会 長	三 木 武 夫	徳 島		
副 会 長	水 田 三 喜 男 愛 知 揆 一	千 葉 3 宮 城 1	小 坂 善 太 郎 高 橋 進 太 郎	長 野 1 参 宮 城

国会对策委員長	園 田 直	熊 本 2
全国組織委員長	石 田 博 英	秋 田 1
広 報 委 員 長	橋 本 登 美 三 郎	茨 城 1
財 務 委 員 長	周 東 英 雄	山 口 1
党 紀 委 員 長	小 林 英 三	参 埼 玉

日 本 社 会 党

中央執行委員長	河 上 丈 太 郎	兵 庫 1		
書 記 長	成 田 知 己	香 川 1		
政策審議會 同 副会長	勝間田 清 一 北 山 愛 郎 多賀谷 真 稔 中 沢 茂 一 辻 原 弘 市 戸 叶 武	静 岡 2 岩 手 2 福 岡 2 長 野 1 和 歌 山 2 参 栃 木	石 村 英 雄 小 林 進 八 木 一 男 秋 山 長 造 藤 田 進	山 口 2 新 潟 3 奈 良 参 岡 山 参 広 島

国会対策委員長 同 副委員長	島 上 善 五 郎 淡 谷 悠 蔵 滝 井 義 高 藤 田 藤 太 郎	東 京 6 青 森 1 福 岡 4 参 東 京	堂 森 芳 夫 阿 部 竹 松	福 井 参 全 国
統 制 委 員 長	黒 田 寿 男	岡 山 1		
財 務 委 員 長	松 原 喜 之 次	大 阪 3		

民 主 社 会 党

中央執行委員長	西 尾 末 広	大 阪 2		
書 記 長	西 村 栄 一	大 阪 5		
政策審議會 同 副会長	今 澄 勇			
副 会 長	内 海 清 七 基 政	広 島 3 参 全 国	玉 置 一 穂 田 上 松 衛	京 都 3 参 神 奈 川
国会対策委員長	春 日 一 幸	愛 知 1		
副 委 員 長	井 堀 繁 雄	埼 玉 1	田 畑 金 光	参 福 島

(昭38. 9.15現在)

— 15 —

8月のメモ

- 1 ○オーストラリア、マツキユアン副首相来日。
○道税務課、37年度道税の最終実績をまとめる、収入額189億3,946万円、調定額に対する割合97.4%（前年度実績を0.6%上回る）。
- 2 ○厚生省、児童福祉対策要綱を公表、妊婦に栄養食支給、遊園地に必ず指導員置く。
○農林省、中央市場手数料引き下げをきめる、19日から実施。
○早川自治相、住民税の不均衡是正を指示。
- 4 ○道学大学長に城戸東洋大教授当選。
- 5 ○米英ソ、部分核停条約に正式に調印。
○第9回原水爆禁止世界大会開幕（広島）。
- 7 ○産炭地域振興審議会道地域部会、産炭地の振興計画付帯決議をつけた承、石狩にコンビナート、釧路に火力発電所新設。
- 9 ○全国知事会議開く、首相、広域行政の推進と人づくりを説示。
○厚生省、公衆浴場料金で次官通達、決定権は知事に
- 10 ○人事院、公務員給与で勧告、平均6.7%アップ、5月実施、下位等級に厚く。
○道、無電灯地帯の電気導入計画をまとめる、本年度は5,663戸。
- 11 ○道選管委員に高橋石松氏発令。
- 12 ○国鉄、青函トンネル試掘坑正式に決定、来月下旬に着工。
○道、明年度開発公共補助事業概算要望額をまとめる総額309億8,000万円、(本年度予算を75%上回る)。
○道鉱業市町村会、炭鉱離職者動態をまとめる、(34年～38年5月)延べ4万3,000人に達す。
- 13 ○国鉄、青函連絡船の若返り5カ年計画を3カ年に短縮、40年までに6隻建造。
○港湾審議会、特定港湾整備事業で運輸相に答申、苫小牧の用地造成など。
○道地方課、市町村財政の現状と問題点をまとめる、高い住民の税負担、望まれる補助金の合理化。
○蛸子副知事就任。
- 14 ○日本、核実験停止条約に正式調印（ワシントン）。
○南極地域観測統合推進本部、南極観測40年から再開を決定。
- 15 ○第1回全国戦没者追悼式行なわれる。(東京)
- 16 ○佐藤開発庁長官来道。
- 19 ○道農地開拓部、開拓地の営農振興策を公表、既存農家と均衡、所得5年後に3.6倍に。
- 20 ○通産省、石狩地区の産炭地振興実施計画をまとめる工業出荷額800億円に（42年度）。
- 21 ○文部省、来年度文教予算の重点事項をまとめる、幼稚園教育普及7カ年計画の推進、無償教科書40年度分は6年生まで。
- 22 ○開発庁長官、39年度道開発予算要求要領案を開発審議会に諮問、原案どおり了承。
- 23 ○法相、閣議で犯罪白書を報告、少年犯は戦後最高。
○大蔵省、市町村民税の実態調査結果をまとめる、(本道の調査対象18市17町村)不均衡な住民税負担、大都市の3～5倍。
○文部省、省議で公立文教施設整備新5カ年計画の大綱をきめる、小中学校を鉄筋化。
- 24 ○文部省、高校入試の改正告示、定員不足でも実施、面接も復活してよい。
○行政管理庁、陸運行政で勧告、タクシー、ハイヤー免許制度は廃止。
○初の道庁部課長会議開く。
- 26 ○経企庁、37年度経済見通しの実績試算をまとめる、実質成長率は3.8%。
○道、冬野菜流通対策で行管局に回答、生産拡大に努力、卸し売り市場を大型化。
○本年度普通交付税道内市町村配分きまる、総額176億750万円。
- 27 ○日米綿製品取り決めに調印。
○新港湾5カ年計画本道分事業費きまる、総額696億円、札幌新港着工めざす。
- 28 ○建設省、来年度の重点施策（道路、河川、住宅）をまとめる、5～7年の長期計画、道開発補助の優遇措置変わらず。
○道農業会議、共同経営の実態と動向を公表、酪農40%占める、経営拡大で負債多くなる。
- 29 ○海上保安庁、39年度の重点施策をきめる、千歳に航空基地、苫小牧などに保安署。
- 30 ○閣議、砂糖など35品目の自由化（31日公示）を了承、自由化率92.2%に。
○道開発庁、39年度道開発予算の概算要求額をまとめる、総額995億9,000万円。
○縫製品工場的美唄設置決まる、本格操業は来春。
- 31 ○食糧庁、ビート価格で勧告、6,150円以上に。
○文部省、大蔵省に対し明年度予算を要求、国立工専苫小牧など11校申請。
○開発庁、低開発地域工業開発地区、第2次指定を申請。

昭和38年9月20日発行

北海道議会時報 (第15卷
第9号)

編集 北海道議会事務局調査課

発行 北海道議会事務局